



伊豆森林管理署に保管されている伊豆林政史資料編（部分）

独特の樹形を示す天城山のブナ。このような林にも炭窯跡が点在している。

日本森林学会による 日本の林業遺産を知ろう！

人と森林のかかわりを辿る —伊豆半島の森林史に関する資料—

元東京大学大学院農学生命科学研究科 井出雄二

はじめに

静岡県伊豆半島の天城山には、太平洋側としてはめずらしい広大なブナ林が広がっており、生態学的に貴重な森林と考えられてきました。一方、江戸時代、天城山は、江戸の木炭需要をまかなう重要な地域で、年間15万俵（約3,400t）^①もの炭を江戸に送っていました。実際、まったくの天然林と考えるこのブナ林のあちこちに、炭窯の痕跡を見ることが出来ます。

森林の一生は人間の一生に比べてはるかに長いので、その生い立ちや行く末を十分に理解するのは難しいのですが、過去の管理や利用のありさまを知ることができれば、その成り立ちを深く突き詰めることができます。そして、これからの付き合い方についても有益な示唆を与えてくれるはずです。

「伊豆林政史」の刊行

天城山は江戸時代、幕府の御林として管理されて来たことが幸いして、森林に関する文書類が様々な場所に相当数残されています。しかし、それらは整理されている

わけではないので、全体を把握し、個々の文書を活用することは容易なことではありません。

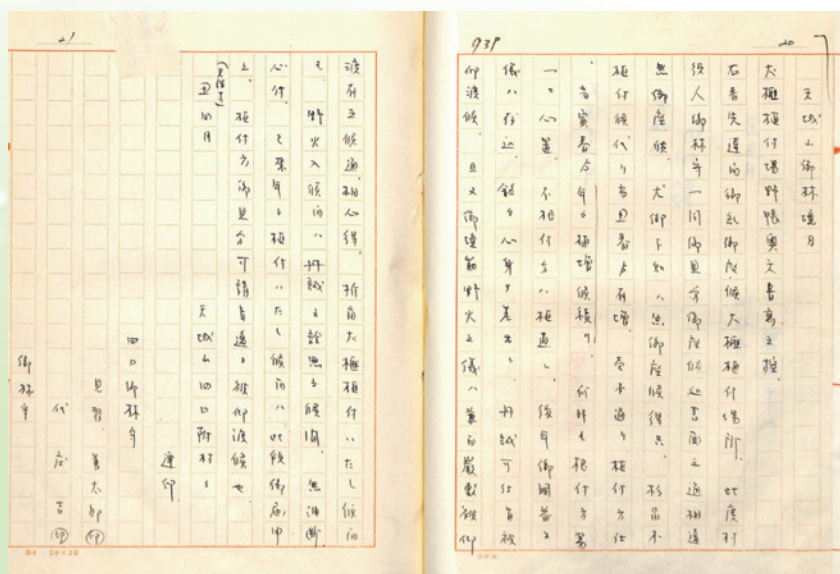
ところが、そのような文書類を網羅して、伊豆半島の森林史を取りまとめるという大事業が昭和30年代東京営林局（1999年の組織改編により廃止）によって行われたのです。その成果は、「伊豆林政史」として昭和39年に刊行されていて、その取り扱う年代は、江戸時代から明治・大正までのおおよそ400年間におよびます。

この執筆に先立って、2年間にわたって文書類を各地に尋ね、書き写したものが「伊豆林政史 資料編」として残されています。収集資料は実に1,308点、原稿用紙約3,300枚にのびります。これを製本した全19冊と「伊豆林政史」の下書きである「伊豆林政史概説編」（全1冊）

収集された資料の特徴

資料編には、古文書類、書籍中の記述、統計資料、絵図、御料林公文書の原本など

が、伊豆森林管理署に保管されています。これらは、伊豆地域の森林における様々な営みを検証する上で極めて重要な史料であり、今後の林政史、森林史研究に大きな寄与が期待できるとして、2016年度に林業遺産に認定されました。



「資料編」に綴られた原稿（第7分冊）

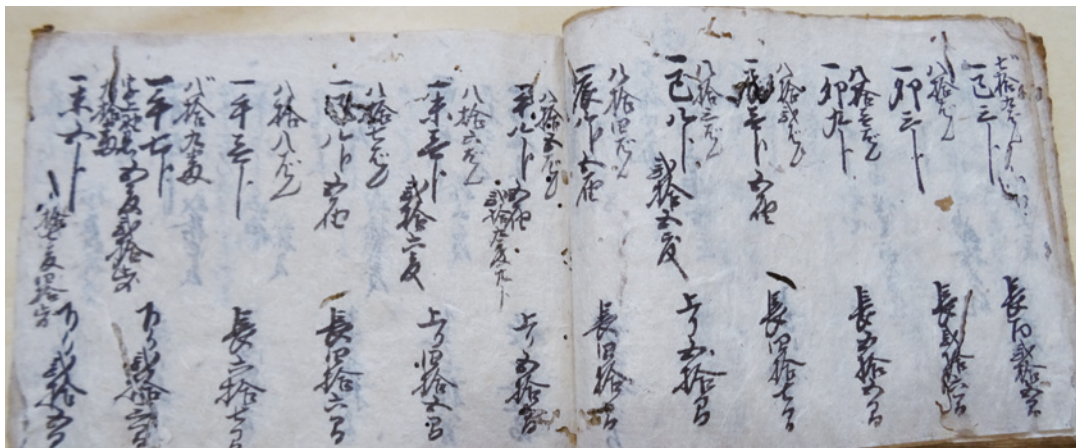
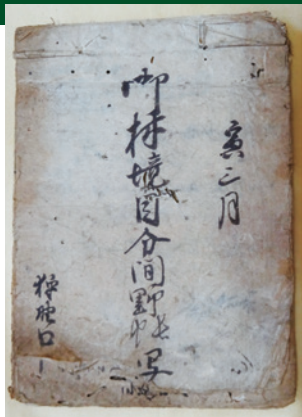
イヌカヤを御林境の目印として植えた際の報告書の抜粋（奥田家文書、天保12、1841年）

が含まれており、そのうち、古文書類が1,050点と全体の8割を占めています。毛筆のくずし字文書を、これだけの量、判読、筆写した調査者の力量と熱量には感服せざるを得ません。

古文書の中核をなしているのが、元禄11

(1698)年から明治初期までの約180年間、江戸時代を通じて葦山代官として御林を管理した江川家、天城山仁科口の御林守を務めた西伊豆町の奥田家の文書です。江川家の文書は、炭焼の請負契約書、江戸への報告書、各種訴訟に関する記録、奥田家のそれは、現地での作業や調査の報告類などが多くを占めています。

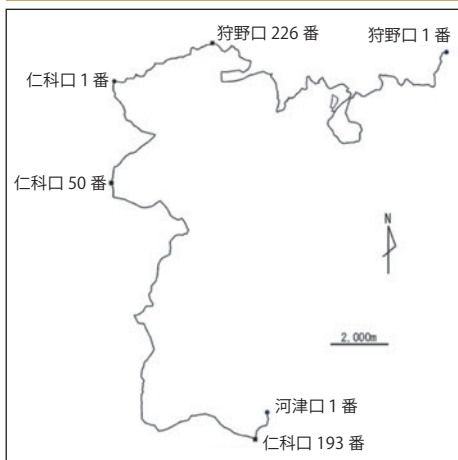
例として、奥田家文書から文政13(1830)年に行われた御林の境界測量の結果を記した「御林境目分間野帳写」を紹介します。野帳から当時の御林の境界を作図してみました。これを大正時代の天城山御料林の境界と比較してみると、野帳から起



「資料編」974ページに収録された「御林境目分間野帳写」の原本(文政13、1830年) 西伊豆町奥田家にて著者撮影(2019年8月)

こした境界は御料林の西側だけに限られませんが、この範囲では両者にほとんど違いがなく、幕府の御林がほぼそのまま御料林として引き継がれたことが推定できます^②。同時に、測量の正確さにも驚かされます。

古文書の記録から作図した御林の境界と天城御料林の境界 井出(2020)を改変



奥田家文書「寅三月 御林境目分間野帳写 狩野口」、「寅三月 御林境目分間野帳写 仁科口」(文政13、1830年)等にもとづく



「天城御料林之圖」帝室林野局(大正4、1915年)
①、②はそれぞれ左図狩野口1番、河津口1番に対応

このように、収集された文書には、当時の森林管理のありさまを確認できるものが少なくありません。それだけでなく立木調査野帳など、往時の植生状態を知ることのできる資料も数多く含まれています。

おわりに

「伊豆林政史」は、関東森林管理局が全文を公開しています^③。また、収録資料の目録が、東京大学演習林刊行の「演習林」63号に掲載されています^④。

是非これらにアクセスしてその全貌にふれてみてください。林野先輩諸氏の、将来のために記録を残そうという熱い思い、江戸時代の人々の森林における営みを身近に感じられることと思います。

伊豆林政史及び林業遺産

「伊豆半島の森林史に関する資料」について

<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/koho/izurimseishi.html>



「伊豆林政史資料編」

詳細目録

<https://doi.org/10.15083/00079995>



引用文献など

- (1) 砂坂元幸 筑波大演報 11:37-69, 1995
- (2) 井出雄二 中部森林研究 68:51-56, 2020
- (3) 関東森林管理局 <https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/koho/izurimseishi.html>
- (4) 井出雄二 演習林 63:105-112 <https://doi.org/10.15083/00079995>